



公益財団法人ロータリー米山記念奨学会

財団設立50周年記念式典 報告書

50th Anniversary

2018年2月4日

会場：グランドニッコー東京 台場



目次

はじめに	1
アルバム	2
第一部 フォーラム	9
開会挨拶 / 来賓紹介	10
理事長挨拶	11
来賓祝辞	12
50周年記念式典フォーラム	14
第二部 祝賀会	27
開宴挨拶	28
理事長挨拶	29
来賓紹介(各国大使館・地域代表機関)	30
記念講話	31
特別表彰	33
乾杯挨拶	35
アトラクション	36
学友代表挨拶	37
閉宴挨拶	41
アンケート結果	42
式典を支えてくれた方々	44
登録者リスト	48
地区からのたより	56
その他の50周年記念事業	58

はじめに



公益財団法人ロータリー米山記念奨学会
理事長

小沢 一彦 Kazuhiko Ozawa

2018年2月4日、ロータリー米山記念奨学会の財団設立50周年記念式典には、約700人にのぼる方々にお集まりいただきました。ご参加いただいた皆さま、そして日本のロータリアンの皆さまに心より感謝申し上げます。2月4日はまさに、米山梅吉翁生誕150周年にあたる日でもありました。私は皆さま一人一人の笑顔を見ながら、戦後日本のロータリーが育てたもの、それはまさしくこの米山記念奨学事業なのだと、胸が熱くなるのを感じました。

米山奨学生は、当事業の特色である「世話クラブ・カウンセラー制度」により、ロータリアンとの交流を通じて、日本の社会、伝統文化と和の心、ロータリーの理念、奉仕の実践を学びます。そして、ロータリアンから“信頼、希望、夢”のバトンを手渡され巣立った米山学友こそが、梅吉翁が目指した国際理解と世界平和に取り組む“種”となっているのです。

現在、国内に33、海外に9つの学友会が組織されており、地域社会の発展と課題解決に向け、さまざまな奉仕活動をしています。環境、開発、人権、紛争、多民族共生、人間の安全保障という問題に直面する国際社会では、世界のロータリアンと米山学友は各地で協働して希望ある社会づくりを担うことができます。米山記念奨学事業は人材育成という未来への教育投資です。米山精神を旗印に、より良い世界、国際理解と親善、平和構築に向けて前進いたしましょう。















第一部 フォーラム

10:30～12:15

司会:カレン・ジュリア ウォーターズ

- | | | | |
|-------|------------------------------------|--------------------|---------|
| 9:30 | 登録開始(10時開場) | | |
| 10:30 | 開会挨拶 | 50周年記念委員会委員長 | 埴 東男 |
| | 理事長挨拶 | 理事長 | 小沢 一彦 |
| | 来賓紹介 | | |
| | 来賓祝辞 | 2016-18年度国際ロータリー理事 | 斎藤 直美 |
| | | 東京ロータリークラブ会長 | 森田 富治郎 |
| 10:55 | オープニングビデオ上映 | | |
| | フォーラム「世界に平和の種をまく」～米山記念奨学事業、未来への提言～ | | |
| | | 50周年記念委員会委員 | 高野 孫左エ門 |
| 12:15 | 閉会 | | |
| | 休憩 | | |
-



50周年記念委員会委員長
公益財団法人ロータリー米山記念奨学会副理事長
塙 東男 Haruo Hanawa

本日は大変お忙しい中、またご多用の中を、今日の式典のためにご足労いただきましたことを厚く御礼申し上げます。公益財団法人米山記念奨学会、財団設立50周年でござ

います。その50周年の第一部、式典とフォーラムを開催させていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

来賓紹介 ご臨席の来賓の皆さまを以下の通りご紹介しました

神奈川県立保健福祉大学	名誉学長	阿部志郎 様
文部科学省	高等教育局 学生・留学生課長	井上諭一 様
外務省	アジア大洋州局 地域政策課 課長補佐	鈴木正人 様
元RI会長		ゲイリー・C.K.ホァン(黄其光)様(台北)
元RI会長		田中作次 様 (八潮)
RI理事		斎藤直美 様 (豊田)
RI理事		石黒慶一 様 (鶴岡西)
元RI理事		伊藤義郎 様 (札幌)
元RI理事、公益財団法人ロータリー日本財団 理事長		千 玄室 様 (京都)
元RI理事		南園義一 様 (防府)
元RI理事		渡辺好政 様 (児島)
元RI理事		黒田正宏 様 (八戸南)
元RI理事		松宮 剛 様 (茅ヶ崎湘南)
	令夫人	松宮滋子 様
元RI理事、ロータリー財団管理委員会委員		北 清治 様 (浦和東)
RI理事エレクト		三木 明 様 (姫路)
国際ロータリー日本事務局	事務局長	小林宏明 様
東京ロータリークラブ	会長	森田富治郎 様
東京ロータリークラブ	幹事	大岡 哲 様
坂本ドネーション・ファウンデーション株式会社	代表取締役	坂本精志 様 (名古屋名東)
坂本ドネーション・ファウンデーション株式会社	取締役	坂本春代 様
坂本ドネーション・ファウンデーション株式会社	事務局長	坂本精一郎 様
中央研究院 院士、国立台湾海洋大学 終身特聘教授		廖 一 久 様



公益財団法人
ロータリー米山記念奨学会理事長
小沢 一彦 Kazuhiko Ozawa

皆さまのおかげで、ロータリー米山記念奨学会は財団設立50年目を迎えることができました。

50年前、文部省(当時)に財団法人の認可を求めたところ、果たしてロータリアンから年間2,200万円の寄付を集めることができるのだろうか……と、心配されたそうであります。50年目の現在、平均14.5億円が毎年、日本のロータリーの皆さまから集められております。

現在、日本のロータリーは約2,300のクラブ、8万9,000人の会員がいます。50年前をさかのぼってみますと、約800のクラブ、3万8,000人の会員です。今の半分に満たない。2,200万円を1年で集められるか心配した文部省は、今の寄付額を聞いたらびっくりするのではないかと思います。

今日の式典は、米山学友、そして携わる方々400人くらいに来ていただけたかなと思ながらご案内したところ、600人、700人と、次第に増えていきました。このことからわかるように、日本のロータリーが長い間取り組んできたこの米山記念奨学事業は、日本のロータリアンにとって、実践するプログラムの柱なのだと思います。この事業の素晴らしいところは、世話クラブがあり、カウンセラーがいることではないでしょうか。

世界125の国と地域、1万9,808人にのぼる

学友たちは、異口同音に言います。カウンセラーは、彼らにとって日本のお父さん、お母さんです。彼らが生きている限り、自分の国と日本との交流に尽くし、道のりは遠いかもしれませんが、世界平和に向けて一步一步努力をしていく。その元になっているのが、日本の8万9,000人のロータリアンからの尊い寄付なのです。

今日は、台湾から元国際ロータリー会長、ゲイリー ホァン氏が駆けつけてくださいました。台湾には約3,500人の米山学友がいます。学友が中心となり、台北東海ロータリークラブが設立されました。台湾出身の学友で、つい先日、日本の旭日中綬章を受けた、「エビ養殖の父」と呼ばれる方も本日来ていただいています。

この50周年記念式典を開催するにあたり、米山梅吉さんを実際に知っている人がいるかどうか、探しました。東京ロータリークラブにもいらっしゃらないそうです。そうしましたら、私の地元・横須賀におられたのです。この方は当時、米山梅吉さんの家の隣に住んでおり、東京女子大学理事長、明治学院大学理事長などを歴任、神奈川県立保健福祉大学の初代学長であり現在は名誉学長です。社会福祉分野でナンバーワンの方です。その方が今来ています。92歳です。あとで米山梅吉さんについての話をされますが、米山梅吉さんに頭を撫でられながら大きくなったそうです。

今日、ここにお集まりの学友の皆さんは、ロータリアンが支援した米山記念奨学事業の“宝”なのです。日本のロータリーの会員が減っても、また、何かの都合で寄付が少なくなっても、皆さまの心が通じた米山学友は増え続けます。

どうかこれからも、ロータリー米山記念奨学事業についてのご理解とご支援を心からお願いするとともに、こんなに大勢お集まりいただいた皆さまに、心から感謝を申し上げまして、挨拶とさせていただきます。



2016-18年度
国際ロータリー理事

斎藤 直美 Tadami Saito

記念式典の開催誠にありがとうございます。関係各位のご尽力に深い敬意を表するとともに、本日はお招きいただき誠にありがとうございます。

2011年3月12日か13日、私の家に1本の電話が入りました。耳を疑うような電話でした。それは、フィラデルフィアにある妻のアパートか、天津にある僕のアパートへ、お孫さんを連れて逃げて下さい、という電話でありました。福島第一原発事故で日本列島が放射能で汚染されたと世界中に伝えられたということが、後でわかりました。電話の主は、天津医科大学を卒業して、関節軟骨の研究のために名古屋大学医学部整形外科へ留学し、博士号を取った元米山奨学生です。彼はその後、姉妹研究室のアメリカのトーマス・ジェファーソン大学の研究所に移り、そこで北京大学卒の才媛と出会い、結婚し、男の子を授かりました。私と家内は、五月人形のかぶとと鯉のぼり、そして、米山から送られてきた博士号取得祝いの時計を持って、フィラデルフィアへ駆けつけました。そんな彼とのつながりが、この1本の電話になったのだと

思います。

彼は、北京市内の施設の子供たちに日本語を教えるなどの活動をしている米山学友会北京支部の発起人の一人として活躍しており、現在、天津医科大学国際医学院の院長となっております。米山奨学会では、このような青年を毎年大勢育てており、このような例は世界中に広がっているのです。今や米山奨学会の学友会は、ロータリーのネットワークを支えている日本のロータリーが誇るべき財産に成長したのであります。

ネットワークと申せば、国際協議会の帰り、同期理事の故郷、グアテマラに立ち寄ってきました。例会に出席し、スピーチを求められましたので、青少年交換と米山奨学会について触れさせていただきました。グアテマラにも米山奨学会のネットワークが生まれることを願うものであります。

これからも、本会がますます発展されますことを祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。



2017-18年度
東京ロータリークラブ会長

森田 富治郎 Tomijiro Morita

ロータリー米山記念奨学会財団設立50周年にあたりまして、ご祝辞を申し上げます。

ご説明するまでもないことかと思いますが、この事業は1952年、東京ロータリークラブが故米山梅吉翁の功績を記念して米山基金を設置したところに始まり、1957年からの全国組織、「ロータリー米山奨学委員会」を経て、1967年7月に財団法人となりました。以後、昨年7月までに、125の国と地域の19,808人を支援する国際奉仕事業に発展してきたわけであります。

ここに至るまでの歩みは、概括的に申せば順調といって良いといえますが、時に、困難な事情も発生しなかったわけではございません。特に、日本のバブル崩壊と少子化の進行が重なり、長期にわたる経済の停滞が影響したと考えられる日本のロータリー会員数減少の関係からか、米山奨学会への寄付金の減少が続き、奨学生数の削減や奨学会の運営体制の見直しを余儀なくされたということもありました。

しかしながらこの流れは、奨学会の理事

長、役員、スタッフの皆さまのご努力と、各ロータリークラブの熱意、そして、2012年以降の日本の経済情勢の改善ということも加わって、寄付金の下げ止まり、奨学生数の反転という方向に向かっております。

過去の悲慘な戦争への反省に対する米山翁の意思を受けた、「“平和日本”を世界へ伝えたい」という、米山記念奨学会の理念は、奨学生たちの、日本と母国の懸け橋となり国際理解と親善につとめ、世界の平和に貢献するという意志となって、明確に実を結んでおります。この流れをますます強め、世界のロータリークラブへの、ひいては、世界の国々への強い発信力の担い手となりますように、奨学会の一層のご尽力と日本の全ロータリークラブの努力を期待したいと思います。東京ロータリークラブがその担い手としての責任をしっかりと果たしていく決意であることは言うまでもありません。そのことをお誓いして、祝辞を結ばせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

50周年記念式典フォーラム

50周年記念式典フォーラム

世界に平和の種をまく ～米山記念奨学事業、未来への提言～

パネリスト

チン シチャン
陳 思乾 (台湾/1973-75/大阪淀川RC)
INDEX Corporation 總經理
台湾米山学友会第3代理事長。台北東海RC創立会員

ジョン ビョン テ
全 炳 台 (韓国/1980-83,91/仙台北RC)
建国大学 名誉教授
韓国米山学友会第5代会長。セソウルRC会員

リン シャオウエイ
林 小微 (台湾/1983-84/和歌山東RC)
ユニバーサルトレーディングカンパニー 代表
2006-08年度関西米山学友会会長

ジャンチブ・ガルバドラッハ (モンゴル/1998-99/山形北RC)
新モンゴル学園 理事長
モンゴル米山学友会創立会長。フレーRC会員

ウ エイ
于 咏 (中国/2005-07/名古屋中RC)
ジブラルタ生命保険株式会社 名古屋中央支社 第十四営業所 所長
第2代よねやま親善大使。愛知ロータリーEクラブ創立会員

ファシリテーター

高野 孫左エ門 (甲府RC)
2012-13年度 国際ロータリー第2620地区ガバナー
2018年度 国際ロータリー研修リーダー
米山記念奨学会 50周年記念委員会委員、広報委員



高野 皆さま、こんにちは。フォーラムを開催させていただきます。『米山記念奨学事業、未来への提言』というサブタイトルが付いていますが、パネリストには各地でそれぞれ活躍されている学友にご登壇いただきました。短時間のフォーラムとなりますので、事前に方向整理のため、3回にわたるアンケートを行いました。

まず、第一の設問として、「奨学生・学友からみたロータリー／奨学会とは、どのようなものであるか」という問いかけをした結果、こちら（図1）に書かれている内容の返信をいただきました。ここから導き出されたキーワードが、「奉仕」と「成長」です。

パネリストへのアンケートから

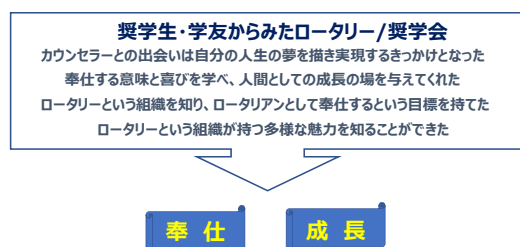


図1

第二の設問は、「奨学生・学友としての奨学会への関わり方は、どのようなものがあるか」という問いかけをしました。こちら（図2）に記載のような回答をいただいた中から、「恩返し」「懸け橋」というキーワードを導き出しました。

第三の設問は、「奨学会や学友会の存在価値を

パネリストへのアンケートから

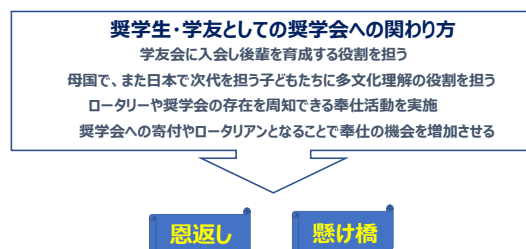


図2

高めるために、どうしたらよいか」について、学友としての意見を求めたところ、こちら（図3）に記載のような回答をいただき、その中から「行動」「ネットワーク」というキーワードを導き出しました。

パネリストへのアンケートから

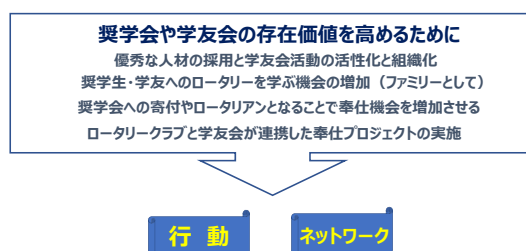


図3

「奉仕・成長・行動・ネットワーク・恩返し・懸け橋」。これまで50年間、ロータリアンのご理解と協力によって事業を展開してきた結果、奨学会の基盤強化が図られてまいりました。同時に、125の国・地域出身の19,808名の学友が、それぞれの地域社会において活発な活動を展開してくださり、学友会自体の活性化も図られてきています。（図4）

未来への提言

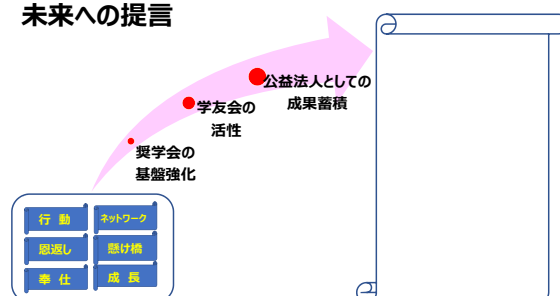


図4

50周年の節目の時を迎え、公益法人としての当財団のあり方について、本日ご登壇の皆さまから話を伺い、設立時に描いたロータリーの夢について考えていきたいと思ひます。まず、このキーワードに基づいて、お一人5分程度でお話をいただきます。

では、陳さん、お願いいたします。



陳 皆さん、おはようございます。ただいまご紹介にあずかりました、台湾米山会の陳思乾です。私は1973～75年の2年間、奨学金をいただきました。世話クラブは大阪淀川ロータリークラブ（RC）です。カウンセラーは3人いましたが、残念ながら皆さん、亡くなられました。

最初、私が例会に行くのは、奨学金をいただくのが目的でした。例会後も会員と話すことは少なかったのですが、カウンセラーと話し、カウンセラーから誘われて、クラブの行事や活動に参加するようになりました。いろいろな会員の皆さんとの会話の機会ができて、ロータリアンの皆さんが持つ共通点に気がきました。それは「無私、寛大さ、あふれる熱情、思いやりのある心」です。私は非常に感銘を受け、そのような人間になりたいと心から思いました。1995年に台北東海RCの設立の話があり、私はそ

のチャーターメンバーになりました。台湾に帰って20年後のことです。台湾米山会は1983年創立で、97年に学友会としての登録ができました。その後、順調に理事会や総会、奉仕活動を行い、2002年には社団法人になりました。そのおかげで寄付を募りやすくなりまして、後に奨学金制度をつくることにつながりました。

「いかにしてお世話になった米山奨学会や日本に恩返しができるか」が、学友会の会議の中で一番よく出る話題でした。2000年以降、台湾から日本に留学する学生数が減少しています。われわれの日本での留学経験、日本とのつながりを若い世代に残したい——その思いから、2006年に台湾で『日本留学を考える～異文化との出会い～』というシンポジウムを開催しました。台湾の大学生・高校生を対象にして、社会への貢献度、知名度の高い学友たちをパネリストに招き、それぞれの経験から日本留学の魅力を学生たちに語ってもらいました。そのほか、一橋大学の横田雅弘先生（当時）もお招きして、日本の大学の現状を紹介していただきました。日本からも100人を超えるロータリアンやご家族、学友が参加して、結果的に合計433人の盛大なシンポジウムとなりました。準備から当日の各役割まで全て学友が中心となり、日本との懸け橋として力になりたいという米山会の思いが実現したことをうれしく思いました。今日ご出席の廖一久先生、呉憲璋さん、徐重仁さんも、そのシンポジウムで自らの日本留学経験を語ってくれた方々です。

先ほど申し上げたように、2002年に台湾の学友会が社団法人に登録され、2006年の中頃に、台湾に留学する日本人学生を支援する奨学金制度を

つくることを決定しました。ロータリアンと同じように、われわれ学友もさまざまな人材が揃っていますので、募金の方法や奨学生の選考、また、特に重要な世話クラブ・カウンセラーをどうするかなど、皆でいろいろ知恵を絞って制度を固めました。2006年後半に発足して募金を開始し、第一号奨学生の山下世莉さんが来台したのは、2009年8月のことです。それから毎年、2～4人の奨学生を募集して、9年間で合計20人の日本人留学生が、この台湾米山奨学金を受け取りました。これからも20年、30年、50年と続けられるように台湾学友の皆で頑張っていきたいと思います。

もう一つ、私は1995年にロータリアンになって以来、クラブ会長も経験し、地区のさまざまな委員会に配属され、ロータリー組織の中の多岐にわたる奉仕活動とその良さを深く認識できました。2015-16年度は、本日ご臨席のゲイリーC.K.ホアン元RI会長によって、第3480地区の代表幹事に指名されました。1年間ガバナーの側について、ガバナーがどれほど地区に貢献したかを肌で感じることができました。台湾米山会も、許國文さんと、今日ご出席の林華明さんという、二人のガバナーを輩出していて、学友として大変誇りに思っています。米山奨学金をいただいたおかげで、私はこんなに素晴らしい人間性を認識できたことを非常にうれしく、幸せに思います。それは「無私、寛大、思いやりのある心、熱情」、皆さん本当にありがとうございました。

高野 陳さん、ありがとうございます。それでは全さん、お願いいたします。

全 こんにちは、韓国学友会の会長、全炳台です。50周年に心からお祝い申し上げ、今日は「恩返し」



のテーマで発表させていただきます。

昨年、私が台湾学友会の総会に出席した際、小沢理事長が私に「日韓関係は政治的に難しい部分があるが、だからこそ、このような集まり、米山学友会同士の交流が必要ですよ」と言われました。私も同じ考えですので、とてもうれしかったです。「いろいろな国の学友会のメンバーたちと親しくしていきましょう」との思いから、昨年熊本で、世界の米山学友が集まる合同イベントを開き、皆さんの協力のおかげで、大成功を収めることができました。どうもありがとうございました。このような集まりは、米山奨学会の基本精神である、世界平和のために役立つものになると思います。

私は28歳の時、日本に留学することを決め、韓国を離れる時には「ノーベル賞を取るために日本に行きますよ」と宣言しました。そして5年後、東北大学で農学博士号を取りました。帰国直前に世話クラブの仙台北RCで送別スピーチをしましたが、その中で「ノーベル賞をもらいます。そして、ロータリアンになります」と、二つの約束をしました。帰国して、ロータリアンになる約束は守りましたが、ノーベル賞は後にすることにしました。なぜなら、まず米

山奨学会のような奨学財団を韓国でつくろうと考えたからです。

私はこの5年、韓国学友会の会長を務めていますが、その間にさまざまな国の学友会の行事に参加しながら、いろいろなことを学んでいます。中でも、数年前に台湾の学友会総会に参加した時、日本人留学生に奨学金を渡すのを見て、とても大きな刺激をもらい、早速、韓国学友会でも始めました。2016年から開始したばかりですが、現在までに6人の日本人留学生に奨学金を支給しており、どんどんその数を増やしたいと希望しています。

また、米山学友だけが入会できるロータリー衛星クラブをつくりました。米山学友会の世界的なネットワークを立ち上げたほか、35年間勤めた建国大学で、外国人留学生の制度を大きく変えました。このような経験を基にして、韓国にも日本の米山奨学会のような、外国人留学生だけに奨学金を支給する奨学会をつくる準備をしています。

韓国にも“世界に平和の種をまく”奨学会をつくる。私はそれが、米山奨学会に対する恩返しだと思っています。ノーベル賞は、その後にまた挑戦します。



高野 ありがとうございました。では続いて、林さん、お願いします。

林 皆さん、おはようございます。お招きいただき、ありがとうございます。今日は、米山梅吉先生の誕生日150周年、その上、財団設立当時の理事である伊藤義郎先生もご出席だそうで、本当にありがとうございます。東京RCが米山基金をつくり、先生方がおられたからこそ、私たち外国人留学生が日本でこのような恩恵を受けることができました。

1983～84年の1年間、大阪府立大学在学中に米山奨学生となり、世話クラブとして配属されたのが和歌山東RCです。大学から和歌山東RCまではとても遠い道のりでしたが、奨学生になってから卓話もたくさん依頼され、いろいろなところに出かけました。今にして思えば、遠かったけれど、とても良い経験でした。まずお礼申し上げたいのは、毎年、奨学生の選考、オリエンテーション、終了式などの行事に、ロータリアンの先生方がたくさんの時間を費やしてくださっていることです。本当に心から感謝申し上げます。

奨学期間終了後、私はアメリカに進学しましたが、当時のカウンセラーに「女の子だから、日本留学後は早く親元に帰りなさい。進学は考えないで」と言われ、渡米することは、心苦しくて言えませんでした。その後、台湾へ帰ったものの生活に慣れず、大学の教授にもう一度日本の大学院に行きたいと相談し、1986年に大阪府立大大学院に再留学しました。

2004年から関西米山学友会の役職が飛び込んできまして、当時の地区米山記念奨学委員長から、消息不明になった学友を探すことを頼まれました。

た。学友会の役員数名で手分けしてSkype（スカイプ）などで探したら、多くの元奨学生が、日本留学後にアメリカに渡り、進学・就職していることがわかりました。彼らに学友会の話をする、10人中10人が喜んでくれました。アメリカにも将来、米山学友会ができるのではないかと期待しています。

当時のことを一つお話しさせていただくと、ある日、米山学友の元カウンセラーと名乗る方から電話があり、「うちで世話をしていた学友が夫の転勤で関西に転居するので、友だちを紹介してほしい」と。

「もちろんです」と返事しますと、カウンセラーは続けて「彼女は、子どもに生まれつき障がいがあり、とても悩んでいるから何とか力になってほしい」と、まるで自分の娘のように頼まれるので、本当に涙が出ました。電話をしたら、その学友はすぐに学友会に参加してくれました。このように奨学生が新しい土地に移る際、カウンセラーからその土地の学友会会長に連絡してもらえたら、こちらからその学友に声掛けできますし、消息不明になることはないと思います。

もう一つの願いは、ロータリアンから奨学生・学友に過剰な期待をしないことです。博士号を取得した学友が、中国の大学に就職したけれど、大学名は公表しないでと言ってきました。本人は、北京大学や清華大学の先生になるのが夢だったが、就職した大学はそうではないからと。そういうケースもありますので、カウンセラーからは「今は、元気にしているか」と、声をかけていただければと思います。

奨学会も50年経ち、今まで支給された奨学金は、約450億円だそうです。学友からの寄付は3

千万円、学友がもうすぐ2万名を超えます。2008年に奨学会から送られてきた『ロータリーの友』で遺言寄付を募っているのを見まして、ちょうど米山事務局を訪問した際、学友としてその第一号になろうと最初の申請をしました。長い間、公表するのをためらっていましたが、中国のことわざに「抛磚引玉」というのがありまして「良いものを引き出すには、つまらないものを差し出す」、つまり、捨て石という意味です。同じ思いを持つ学友がたくさんいると信じて、ご支援をいただいた奨学金の倍返し、10倍返し、ひょっとしたら100倍返しができるかもしれません。私たち学友は、日本でいただいたご縁を大切に、もっと交流を深めて、国際親善、世界平和に少しでも貢献したいと思います。これからも学友会へのご支援・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

高野 ありがとうございます。それでは、ジャンチブさん、お願いいたします。



ジャンチブ 皆さん、おはようございます。小沢理事長様、日本の各地区から来られたロータリアンの皆さま、学友の皆さま、来賓の皆さま、米山記念奨学会の財団設立から半世紀、おめでとうございます。

ます。今日私たち5人は、約2万人の学友を代表してスピーチさせていただくことになり、大変光栄です。私は「行動」と「ネットワーク」について話したいと思います。

私はちょうど20年前の奨学生です。米山奨学生に選ばれたことで、私の人生の転換期が始まりました。実は、6人の大家族を連れて来日しましたので、私はアルバイトに明け暮れていました。奨学金をいただいて、感謝の気持ちでいっぱいになり、皆さまへの恩返しとして母国に学校をつくる夢を持つようになりました。その夢を世話クラブの例会で話したところ、山形北RCの皆さんが僕の志を認めてくれました。それだけでなく、背中を押して応援してくれました。第2800地区のロータリアンの皆さんも支援の手を差し伸べてくれて、やがては一般市民の皆さんも加わって、そのおかげで2000年に、モンゴル初の日本式高校が誕生しました。今思うと、人々の意志が生み出した奇跡のようなことでした。現在、新モンゴル高校の卒業生370人以上が日本に留学しています。卒業生一人ひとりが夢をもって渡日し、夢の実現に向けて日々努力しています。彼らこそが、両国の間に築かれた、生きた懸け橋になります。彼らの中にも、米山奨学生になった卒業生が多くいます。

いまだに私は、卒業生を連れて、お邪魔になるほど何度も世話クラブを訪問しています。この「お邪魔」こそが、われわれの間の絆を深めるネットワークになると、私は解釈しています。一方で、ロータリアンの皆さんも、よくモンゴルを訪問してくれます。例えば、山形北RCは、創立50周年記念事業として、わが学園をさらに支援することを決めてくださ

いました。とてもありがたいことです。クラブの創立50周年記念式典には、大勢の学生を連れて出席する予定です。私には、酒巻さんというカウンセラー、日本のお父さんがいます。お父さんは高齢ですが「君が頑張っているから、私もロータリーを頑張っています」と言ってくれています。

米山記念奨学会は、帰国後、国のリーダーとなる人材を育成することが使命であり、それが20年前、私の心に深く刻まれたのです。皆さんがまいてくれた種は、まさに私です。だから、母国の社会発展に寄与するために学校をつくったわけです。これから、もっと頑張りますので、皆さん、どうぞよろしくお願いします。

私は2011年にモンゴルにあるフレールRCに入会しました。会長も経験しています。世界のロータリアンと接するチャンスが増えました。例えば、ここにいらしている田中作次元RI会長、ゲイリー C.K. ホアン元RI会長、お二人とも私の高校を訪問してくださいました。日本のロータリアンがつくった学校を見て、とても感激されていました。私は2014年に学友たちとモンゴル米山学友会を設立することができました。元気で活発な学友会です。去年は、小沢理事長をはじめ、日本のロータリアン80人がモンゴル米山学友会の総会に来てくれました。私たちは来年7月27日に、「世界学友大会inモンゴル」を開催します。皆さん、ぜひいらしてください。ご招待します。

現在、たくさんのロータリアンがモンゴルと行き来してさまざまなプロジェクトが動いており、私たち米山学友も全面的に協力しています。最後に、うれしいことがたくさんあります。私を応援するガラフェローシップ会が3年前に東京で発足し、第

2580地区のロータリアンを中心に、わが高校の卒業生たちをサポートしています。第2800地区の米山記念奨学委員会も、渡日前奨学金制度を採用しています。皆さん、大変お世話になっております。ありがとうございます。このように「親」であるロータ



リアンと「子」である学友の縁が、切れることなく鎖のようにつながっているのは、世界で唯一、米山記念奨学会の活動のみです。皆さんに深く感謝を申し上げます。私たちは、これからご恩を倍々返すように邁進していきたいです。どうぞよろしくお願いいたします。

高野 ありがとうございます。では、于咏さん。

于 皆さん、こんにちは。第2代よねやま親善大使の于咏でございます。先輩たちのお話を聞かせていただき、「目から鱗」というほど深い感銘を受けました。東京RCの古澤文作会長が1952年に米山基金をつくってから、この奨学事業は66年間の歩みを経ました。125の国・地域から約2万人の留学生を支援してきました、私たちはその代表の数人に過ぎません。人生の最も美しく、活発な青春時代をここ日本で過ごさせていただき、人生において最

も幸運な出来事、ロータリー米山との出会いがありました。皆さまのおかげで苦しみが喜びに変わり、努力が実り、今日の成長と成功につながっております。米山記念奨学事業を支えてくださる全てのロータリアンの皆さんに、心から深く感謝申し上げます。ただし、この感謝は、単なる「ありがとう」のひと言だけではありません。皆さまに対する感謝は、実際の行動、すなわちわれわれ自身の成長、そして皆さんから学んだ「超我の奉仕」の精神を実践することによって実現したいと思っております。

私は22年前に初来日しました。約9年間の苦しい留学生活を経て、2005年に生涯最大の宝物、ロータリーと出会い、米山奨学生となりました。そこから皆さまと関わっていく間に、価値観・人生観ががらりと変わりました。名声、富、権力、それは誰もが欲しいものです。より強く、より優れた人間になりたいと、誰もが望むのです。私も例外なく、そのような野望を持って、海を渡ってきました。貧乏で航空券は買えず、丸2日間、船酔いで死にそうな思いをして、神戸港に初上陸しました。有名になりたい、お金持ちになりたい、その目的は何でしょうか。何のために私たちは強くなろうとしているのでしょうか。そして、誰のために皆さまは日々精進しておられるのでしょうか。答えはそれぞれだと思います。ただ一つ、はっきりと言えるのは、自身のためだけではないということです。ロータリーは、私に人間の生きる目的を教えてくださいました。たった二つです。一つは「自ら成長すること」、二つ目は「人々に尽くすこと」です。ロータリーは、この二つの目的を一度に実現できる人生の大きな舞台なのです。さらに皆さまは、私に人生の目標を教えてくださいました。そ

れは、ロータリアンになることです。皆さまのように「超私の奉仕」を生涯通じて実践していくことなのです。

先輩たちのような輝かしい成功と多大な社会貢献にまだまだ及ばない私ですが、微力ながら日々の仕事に邁進しています。実は昨年3月、ちょうどこの会場で、現在勤めているジブラルタ生命のマネジャー会議が開催されました。私は昨年初めて営業所長となりました。転職して8カ月後のことです。営業所長として、私はその場で無名の一人であって、壇上に上がった人々への拍手喝采を心からうらやましく感じていました。来月、またこの会場で、マネジャー会議が行われます。ジブラルタ生命は、北海道から沖縄まで全国741カ所の営業所があり、741人の営業所長がいます。私は1人からスタートし、今3カ国8名の部下を抱えて、全国3位の成績になっています。チャンピオンにチャレンジしたいと思います。何を言いたいかというと、私は、一ロータリアンとして、職業奉仕という精神があるからこそできたことなのです。根幹である職業に努める、自分ではなく人々のためになる、それが私たちのプライドなのです。それを学ばせていただいたのが皆さまなのです。

「滴水之恩、湧泉相報」。一滴の水の恩恵を受けたら湧き泉の如く返すという、中国古来のことわざがあります。私はまだまだですが、皆さまのように成長したい。皆さまのように社会のためになりたい。皆さまのように、日本だけではなく、世界に目を向けて、夢に向かって羽ばたいて、大きな人間になりたい。なります。皆さまのおかげです。150年前のこの日に生誕された米山梅吉さんの描いた夢が

実現されつつ、さらに大きくなりつつあります。そんな皆さまのために拍手を贈りたいと思います。どうもありがとうございました。

高野 どうもありがとうございました。それぞれ今、感じておられることを語っていただきました。私たちロータリアンがまいた種が根を張り、葉を茂らせて、ならせている実がどのようなものであるか、感じ取れたと思います。加えて、木々が世界へ広がる森に成長している様子がかがえたのではと思います。

ここから今伺ったお話について、少し深掘りしてコメントいただきたいと思います。

では、ジャンチブさん、ロータリアンとのつながりについて、これからどのような展開を望んでおられるか、特に、2日前カウンセラーとお会いになったということです、そのことも含めてご紹介いただきたいと思います。

ジャンチブ 私は、カウンセラーのところや世話クラブへよくお邪魔しています。皆さんもお邪魔してください。そのことによって絆が深くなります。2日前にお父さん（カウンセラーの酒巻さん）にお会いしたとき、「高齢だからロータリーを辞めたいけど、あなたが頑張っているから、“息子”のためにまだやります」と言っていました。

モンゴルにはまだ貧しい地域が多く、皆さんと手を組んで、格差や貧困をなくすために頑張っていきたいです。ホームカミングなどで招かれ、私が日本でスピーチすることで、モンゴルに関心を寄せてくださる人が増え、それに対する学友からの感謝の意識も強くなっています。今、モンゴルでは8人の学友がロータリアンとなっていますが、将来的に私た

ちは、米山学友だけのクラブ、米山モンゴルRCを設立する夢を持っています。

高野 ロータリアンと学友とのコミュニケーションという話で、学友会がこれから担っていく役割、ロータリアンが果たすべき役割について、これから考えていかなければならないだろうと思います。林さん、何かコメントがあればお願いします。

林 私が奨学金をいただいた時代には、今のような奨学生の「確約書」はありませんでした。きつく聞こえるかもしれませんが、権利と義務、奨学生となって奨学金をいただく権利があるなら、それに伴う義務も発生します。私にとっての義務は、ロータリアンの生き方をお手本とし、人生の指針となるように正しく生きていくことです。今の奨学生にも伝えたいのは、権利があれば義務も発生しますよ、確約書にあるように正しく生きましょうねと。それが私の考えです。

高野 奨学生が、奨学金をもらうことを自分の権利としながら、ロータリーや学友会にあまり関わろうとしないというのではなく、自分のできることとして、ロータリアンや学友会との協力を担っていこう、そういう意識付けが必要だ、というご提言ですね。ありがとうございます。

そういう意味では、ロータリアンとクラブ、学友会が一緒に何かをするという場面が、これからの奨学会の目的を実践するにあたって必要になると思います。陳さん、青少年育成分野で何か考えていることがあると伺いましたが。

陳 私はロータリアンになって、青少年奉仕委員会に配属されています。地区内の学生を海外の地区に派遣し、同じように海外から学生を受け入れるプ

ログラムで、8年ほど参加しています。毎年、委員会では、学生の派遣前・帰国後に、同じ服装、同じ場所で、皆で写真撮影をして、帰国報告会でその写真を見せます。報告会では「外国で青年期の1年を過ごした経験は人生を変えた」という言葉をよく耳にし、大変感動します。米山学友会も、年齢差はありますが、同じようなことができるのです。

今、私の夢になっているのは、若い世代の学生が異文化の学生と出会い、お互いに認識して、つながることのできるプラットフォームをつくりたい。そうすれば、帰国して、もしも有事が起こった際にも、「そこには仲の良い友人がいる」と。そのような感覚や正しく判断する能力を持っていれば、世界平和につながるのではないかと思います。自分も若いころ日本に来て、ロータリアンの特色である優れた人間性を認識できたのは、人生の一番の幸せだと思いました。これはやはり、米山梅吉さんと日本のロータリアンに感謝しなければなりません。本当にありがとうございました。

高野 ありがとうございます。もう一つ、皆さんもよくご承知の「よねやま親善大使」という仕組みがあります。学友から公募した応募者の中から選考し、日本全国の地区やクラブを訪問して、ロータリアンに米山の事業のあり方を伝え、つなぐという役割を担っています。于さん、ご自身の人生観が奨学生になる前となった後で大きな変化のプロセスを経た経験を踏まえて、よねやま親善大使として各地区・クラブを訪問されて、今後の事業のあり方、方向性として感じ取っておられることがあれば、お願いします。

于 約2万人の米山学友の代表として、よねやま親

善大使に選ばれたことを本当に光栄に思っています。米山奨学生・学友たちは十人十色、それぞれが花咲いている素晴らしい方ばかりで、さすがロータリーの高潔性と品格で選ばれ抜いた学生たちだと思います。ですから、こういった皆さまと交流する場をできる限り与えてほしい。特に、世話クラブ以外のクラブや、奨学生を受け入れたことのないクラブで卓話するチャンスを与えていただきたいと思います。学生も、受けた刺激をさらに自分の糧にして、それが原動力になると思います。奨学生や学友も、今日大勢出席していますので、ロータリアンと交流して、将来はぜひロータリアンになる目標を持って、頑張っていたきたいと思います。

高野 ぜひロータリアンに、という話が出ましたが、米山記念奨学事業が一貫して守ってきた価値観のことを、全さんはロータリアンではないご子息に伝えて、ご子息もそれに反応されたというお話をお聞きしましたが。

全 先ほどお話ししたように、台湾の学友会が日本人留学生に奨学金を出しているのを見て、早速、韓国でもスタートしました。台湾ではある程度募金をして、奨学金の原資を蓄えてから始めたそうですが、私は全く準備の無いまま始め、募金しながら奨学金を出しているという状況ですので、とても忙しいです。

私の息子は来日1年目で日本で産まれて、4歳で帰国しました。先日「ソングェ、あなたが育ったのは、米山のおかげだよ」と言ったら「なぜ米山のおかげですか?」と。「そりゃ、お前のミルク代も全部米山からもらったんだ。だから、日本人留学生を支援する奨学金に寄付しなさい」と言ったら、「では、

毎年10万円ずつ出します」と約束してくれました。こういうのもいいな、二代目が奨学金に対する恩返しをする、しかも日本人留学生を支援する、これは立派なストーリーになるのではないかと。少し恥ずかしかったですが、去年の韓国学友会の総会で、皆にも知っておいてほしいという気持ちで報告しました。

高野 ご子息はロータリアンになられるのでしょうか?

全 何度も勧めていますが、息子は韓国LGの海外マーケティングのチーム長をしているので、ほぼ海外で過ごしているのです。ほとんど韓国にいないので、まだ先になるでしょうが、約束は守ると思います。

高野 お聞きいただいたように、皆さんが各地で活躍し、その地域の幹になっている様子が伝わってきたのではないかと思います。

米山奨学会が財団法人になって50年、設立当初に掲げた目的、あるいは願った夢があります。ゲーテの格言に「小さな夢を見るな、それには人の心を動かす力がないからだ」という言葉がありますが、小さな夢ではなく大きな夢だったからこそ、米山奨学事業がここまでつながってきたのではないかと思います。

残されている記述や発言から、歴代理事長の夢をスライドにまとめてみました。(図5)

初代理事長は、田さんといいます。「米山奨学会を軸とする国際親善団体の設立・運営を夢見ている」という思いをこの事業に託されました

第二代の湯浅さんは「21世紀に向かったの国際理解は今から始めるべき。日本としてしなければい

けない国際奉仕活動だと信ずる」と、この事業を捉えておられました。

第三代、末永さんは「奨学事業を通じてカウンセラーも奨学生もお互いが育ち、お互いが影響しあう関係づくりが望ましい」と。単純に奨学金を支給するだけでなく、カウンセラー、世話クラブといった特徴をしっかりと根付かせていくことを望まれた言葉だと思います。

第四代の島津さんは「国際理解のため、世界の平和のために、米山奨学会としてはこれまで通りの理想を追って進むべきではないか」。つまり、当初描いた夢や願いを変えるべきではない、それは国際平和へ向けてのことだということを語っておられます。

第五代、板橋さんは「国家間の摩擦の中でも、学友たちが国を引っ張っていくリーダーとなって活

躍し、彼らが楔、懸け橋となって、新しい関係がつけられていくことを期待したい」と。社会や国際情勢が複雑化し、環境が目まぐるしく変わる中であっても、学友に託す「懸け橋」としての役割、親善大使としての役割が大事なのだ、と言っておられるように理解します。

現理事長、小沢さんは「最大の財産は学友。学友が活発に活動できるよう支援することも今後のわれわれの大事な仕事になってくる」とお話ししておられます。われわれが持っている財産は、世界各地に広がるネットワークを構築できる学友であり、その学友が、学友会を通じて、あるいはロータリアンとなって、社会の中で活動していく。その支援をしていくことが、これからの財団の大事な仕事だと指摘していると理解いたします。

これら6人の歴代理事長の言葉の中から、国際

歴代理事長の夢

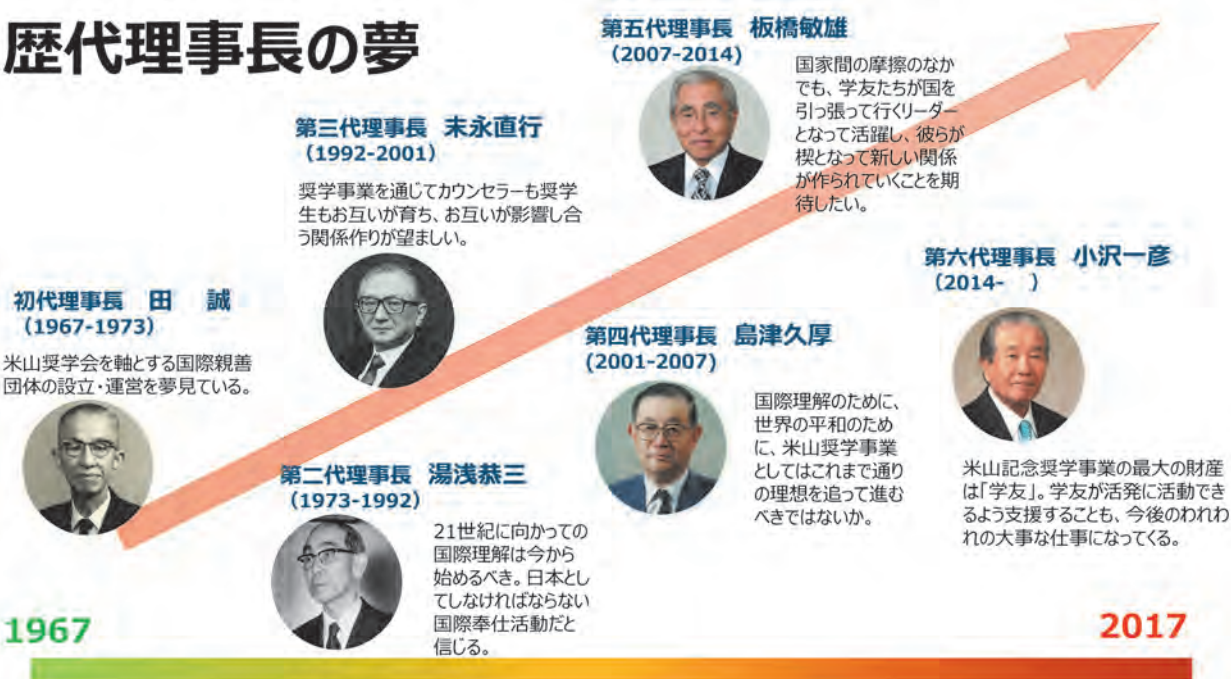


図5

奉仕プログラムとして、人材育成、世界平和、親善推進が、当財団の基盤強化がなされてきた背景にあり、そのことが多くの人の心を動かしたことが、50年を迎えることができた一つの大きな理由ではないかと思います。50周年の節目を迎え、あらためて、その夢がどのようなものであるのか、今日お話しいただいた学友のお話の中からも感じ取れたのではないかと思います。さまざまな社会環境変化の中にあっても、夢の実現に向けた取り組みを感じられたことと思います。

あらためて、ゲーテの言葉を引用させていただきたいと思います。

「財を失うことは小さく失うことである。名誉を失うことは大きく失うことである。勇気を失うことは全てを失うことである」

本日のフォーラムは「世界に平和の種をまく」となっていますが、皆さまにもう一度ご確認いただければと思いますのは、5人の学友が具体的に語られた話、この奨学金が人生に与えた変化を通じて、米山奨学会が設立の時点で持った夢をぶれることなく一貫して今後も描き続け、その実現に向けてロータリアン、ロータリーファミリーの皆さまがこれからも事業を推進していこうというきっかけとなりましたら、本日5人の皆さんに出ていただいた甲斐があるかと思います。今日のフォーラムが、ご出席いただいた皆さまの何かの土産になれば幸いです。



第二部 祝賀会

12:30～14:30

司会:相澤 光春/ジョルダヤコヴァ サウレ

ウエルカム演奏:姜 暁艷

-
- | | | |
|-------|-------------------------------|--------------------------|
| 12:30 | 開宴挨拶 | 副理事長 若林 紀男 |
| | 理事長挨拶 | 理事長 小沢 一彦 |
| | 来賓紹介 | |
| | 記念講話 | 神奈川県立保健福祉大学 名誉学長 阿部 志郎 |
| | 特別表彰 | |
| | 乾杯 | 2017-19年度国際ロータリー理事 石黒 慶一 |
| 13:05 | 50周年記念ビデオ上映「世界へ届け 米山の懸け橋」 | |
| 13:20 | アトラクション | 二胡演奏 姜 暁艷 |
| 13:30 | 奨学生・学友紹介 | |
| | 学友代表挨拶 中央研究院院士、国立台湾海洋大学終身特聘教授 | 廖 一久 |
| 14:25 | 閉宴挨拶 | 50周年記念委員会委員長 塙 東男 |
| | ロータリーソング「手に手つないで」 | 伴奏 姜 暁艷 |
| 14:30 | 閉会 | |
-

開宴挨拶



公益財団法人 ロータリー米山記念奨学会
副理事長

若林 紀男 Norio Wakabayashi

第一部の式典・フォーラムに引き続きまして、ただ今より第二部祝賀会の開宴をさせていただきます。

祝賀会は、記念講話、特別表彰、そして700人を超えるご出席の皆さま方が一堂に会しての宴へと進んでまいります。皆さまには是非とも、米山記念奨学会の50年の歴史を振り返っていただきながら、次なる奨学事業の発展に思いを馳せていただき、今日の祝賀会が皆さまにとって楽しい思い出になります。

すことを祈念申し上げ、開宴の挨拶といたします。





公益財団法人 ローターリー米山記念奨学会
理事長

小沢 一彦 Kazuhiko Ozawa

いつも不思議に思うのですが、米山学友は必ず「日本にご恩返しをしたい」と、話してくれます。これは、世話クラブやカウンセラーのおかげだと思っています。

よく勘違いされることが二つあります。一つは、米山記念奨学会の基金が米山梅吉先生の遺産によって受け継がれていると思われること。この事業は、米山梅吉先生の国際理解と世界平和を目指すその「志」はいただいておりますが、資金はすべて、日本のロータリアンの皆さまから出されたものです。もう一つは、米山記念奨学会と米山

梅吉記念館が一緒だと勘違いされることがあります。この二つは全く別の法人ではありますが、米山梅吉記念館は多くの米山学友も訪問する場所でもあります。私は第2780地区の所属ですが、米山梅吉記念館ができて以来、当地区では一人当たり200円を集めて、毎年記念館に寄付しております。どうか米山梅吉記念館も、米山記念奨学会と同じように、大事にしていだきたいと思います。この二点を今日のご挨拶とさせていただきます。



来賓紹介(各国大使館・地域代表機関)

第二部からご出席の来賓の皆さまを以下の通りご紹介しました

ミャンマー連邦共和国大使館



特命全権大使 Thurain Thant Zin 閣下 (前列中央)
一等書記官 Khaimar Wint Zin Thant 様 (前列左)
通訳 浦山良子 様 (前列右)

台北駐日経済文化代表処



副代表 郭仲熙 様 (中央左)
科学技術部部長 洪儒生 様 *米山学友 (中央)
教育部秘書 黄聖明 様 (左)

モンゴル国大使館



経済担当二等書記官 Alzakhgui Delgermaa 様 *米山学友 (中央左)
教育担当三等書記官 Chuluunbaatar Solongo 様 (中央右)

マレーシア大使館



次席大使 Azri Mat Yacob 様 (中央)

ベトナム社会主義共和国大使館



公使 Nguyen Truong Son 様 (中央)
一等書記官部長 Pham Quang Hung 様 (中央右)





神奈川県立保健福祉大学
名誉学長

阿部 志郎 Shiro Abe

富を残して死ぬるは恥なり。

アメリカの富豪、カーネギーの言葉です。

いま、理事長のお話にありましたように、米山梅吉に遺産がありませんでした。それどころか、米山がつくりました小学校の教員の給与を払うのに、春子夫人が質屋通いをしたと。ご令息、桂三さんの思い出であります。

すべてを捧げた人でありました。青山学院初代院長の本多庸一という人の影響を強く受けまして、本多はキリスト教でメソジスト派に属しておりましたので、その関係でアメリカでオハイオ・ウエスレヤン大学に米山は学びました。このメソジスト(運動)を始めましたジョン・ウェスレーという人の教えを米山は学んだのです。

ウェスレーは、「Gain all you can, Save all you can, but Give all you can」。

できるだけ儲けよ、できるだけ蓄えよ、しかし、できる限り与えよ。

米山は、それを実践した人であります。

米山は小学校をつくりました。幼稚園をつくりました。それは、本多庸一に対する恩に報いるためであります。米山梅吉は恩義の人でございました。

先ほどのパネラーの人々の話を聞いておりまして、奨学金を受けた方々がみんな恩義の人であることに、私は深い感銘を受けました。

米山はクリエイティブな、先駆的な構想を持った人でありまして、それを決断し、実行できる行動の人でもありました。

アメリカから信託業務を導入し、三井信託を建て、ロータリーを始め、三井報恩会を組織した人でありまして、その三井報恩会にいる時代、全国にハンセン病の療養所が当時15ございました。それを米山は歴訪して、病者をなぐさめ、励まし、手土産を持ってまいりました。隔離・差別されておりましたハンセン病の療養所というのは、いわば地の果てにございまして、あるいは孤島でございまして、当時、どんなに不便であったかと思えますけれども、米山はそこに出かけております。そして報恩会を通して、ハンセン病の療養所に3,000ベッド寄付をいたしました。これで全国の療養所のベッド数がよう

やく1万ベッドになったのでありまして、米山梅吉は愛の人でございました。

いまご紹介いただきましたけれども、米山がつくりました緑岡小学校、春子夫人の緑岡幼稚園という間に挟まれた家で、私は生まれ育ちました。たびたび米山夫妻の顔を見ました。「おはようございます」と、帽子を脱いでお辞儀をする程度でございますけれども、春子夫人とは戦後2回お会いいたしました。小学校の6年生の時に、父親に言われ、父親の代理として正月の元日の朝早く、年始に回るので。昔は名刺を置いてくるだけでございますけれども、私は米山の家に行つて名刺を置いてきたのを覚えております。子どもの時、米山が何をしたか知っておりましたので、私も米山のような人物になりたい、そう思いまして、大学では経済を専攻いたしました。故あって、経済の実業の道へは進むことができませんでしたが、今でも米山梅吉を忘れたことはありません。

子どもに、そのあとをついて行こうと心を決めさせる、生涯それをイメージとして描いている。米山という人は、そういう魅力ある、ある意味でのオーラを持った人物だったと、今にして思います。

この米山を、今日のパネラーたち、そしてここにお集まりの皆さま方がそのスピリットの継承者でございます。経済学の父といわれるアダム・スミスが、経済活動をする人にとって必要なのは、傾ける耳、涙する目、差し伸べる手だと、指摘しております。米山はそういう人でありました。経済活動に対し、社会に対し、世界に対して、米山の生き方を私どもは学ぶべきだろうと思います。皆さま方それぞれの人生において、米山のあとをついて行こうではございませんか。



特 別 表 彰

ロータリー米山記念奨学会に対し、個人としてまた法人として多大な貢献をされた坂本ドネイション・ファウンデーション株式会社の坂本精志氏(ホシザキ株式会社代表取締役会長)および春代夫人に、小沢理事長から感謝の盾と花束が贈呈されました。



坂本ドネイション・ファウンデーション株式会社

代表取締役 **坂本 精志 様**
(名古屋名東RC)

取締役 **坂本 春代 様**

坂本精志氏は2000年、2003年にベトナムの奨学生を、2009年に中国の奨学生のカウンセラーを務め、奨学期間が終了した後も、個人的な支援を継続されました。

一人でも多くの留学生支援のため、2018年5月現在、個人・法人寄付を合わせて2億4,600万円のご寄付をされています。また、公益事業を営む団体を支援するために坂本ドネイション・ファウンデーション株式会社を設立し、2016年10月、当会に株式が譲渡されました。



米山記念奨学会に感謝

坂本 精志 Seishi Sakamoto

米山奨学会の50周年、おめでとうございます。私も楽しみにして参りました。

私の父は、島根県の松江中学を卒業して、上の学校に進みたかったのでありますが、農家で家が貧しくて、諦めかけておりました。その時に、出雲市にいる鈴木禄三郎さんという篤志家のおかげで進学が叶い、今日の私ども、それから、ホシザキがあります。後日、父は自分が受けた恩を返すためにと、同じことを島根県の後輩の苦学生合計150人に奨学金を出してきました。

それを見聞きしていた、私も何かしようと考えておりました。妻も子供たちも幸いにして何不自由なく暮らしております。私は父の跡を継ぎ、会社を上場、発展させることもそれなりにできた。従って、妻・子供たちに財産を残すのではなく、妻と相談しました結果、育てていただいた社会にすべてお返しすることにしました。

まずは、持っていた私と妻の自社株を現物出資し、一昨年に設立した坂本ドネーション・ファウンデーションを経由して、公益法人に寄付をしました。その一部を、私が一番関心のある米山に寄付を申し出、米山では定款を変更してまで受けていただきました。最初はホシザキの株を寄付しようと思ったのでありますが、それができませんので、こういう形を取ったわけでもあります。念願叶って嬉しい限りであります。

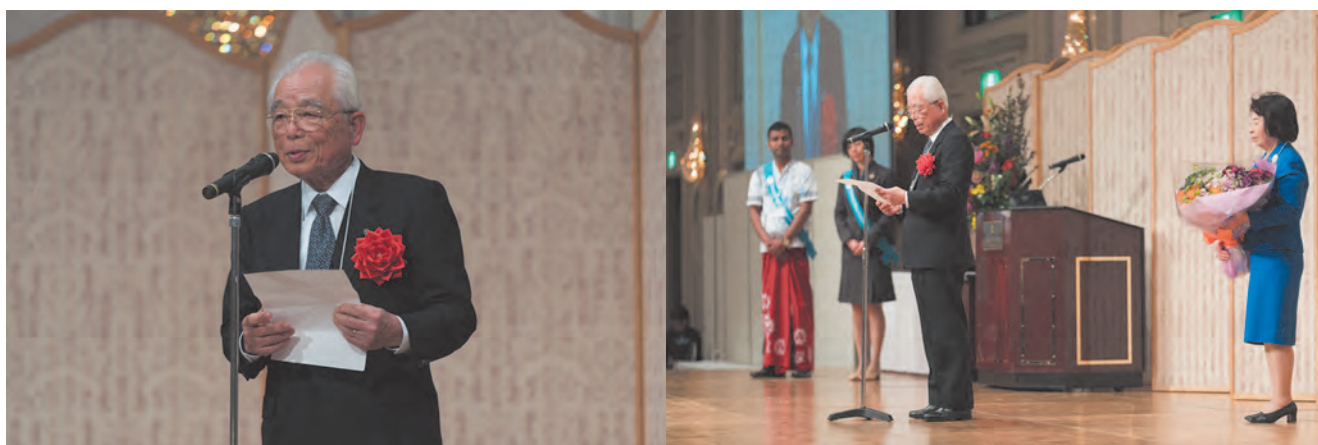
ただし、私にとっては、一度の大口寄付よりも、27年間、連続して行っております米山功労者、ポールハリスフェローの方が、こだわりが強いものであります。

私は今年で81歳になります。

やりたかった仕事も、趣味にも、全力で取り組んでまいりました。

これからは、会社の仕事は別として、取りかかっている複数のボランティアの仕事に取り組んでまいります。

奨学生ならびにOBの皆さんも、あなた方の夢を実現するために、一生懸命で生きてください。世界のために頑張ってください。





2017-19年度 国際ロータリー理事

石黒 慶一 Keiichi Ishiguro

財団設立50周年、誠におめでとうございます。今日の日を迎えられたのも、歴代の理事長をはじめ多くの関係者の皆さまのお力添えのおかげだろうと思います。

先ほどのフォーラム、そしてまた、阿部先生の記念講演に、米山奨学会の真髓が込められていると拝聴させていただきました。そして坂本様には、われわれの手本としてのロータリアンであるということを実感させていただきました。

誠に僭越ではございますが、指名でございますので、乾杯の音頭をとらせていただきたいと思います。どうぞ皆さまご唱和をお願いします。

財団設立50周年、誠におめでとうございます。そしてまた、これから100周年に向けて発展することを祈念し、ご参会の皆さま方のご健勝を祈念して乾杯したいと思います。



アトラクション

二胡奏者として活躍する米山学友、姜曉艷さんが、祝賀会のオープニング演奏やアトラクションを演奏と歌で盛り上げてくださいました。



二胡奏者・医学博士

姜曉艷 Xiao-yan Jiang

- ◆ 出身 中国(日本在住)
- ◆ 奨学期間 2000-02年／広島大学大学院
- ◆ 世話クラブ 広島西南RC
- ◆ 職業 二胡音楽院 院長

中国遼寧省大連市生まれ、5歳から二胡を学ぶ。1997年来日。現在、二胡演奏、作曲、歌手、舞台監督などの総合プロデューサー、ファッションデザイナーとして活躍。日本とアメリカで医学・仏教の講演会と二胡コンサートを多数開催。広島原爆記念日には、広島代表としてニューヨークでの原爆記念日平和式典に出演。原爆被害者、精神障害者への支援活動「Life & Peace. Jiang」主宰。

【演目】 ①ウェルカム演奏
情熱大陸、エトピリカ

②アトラクション
ボレロ ヒロシマ、シルクロード
薔薇のタンゴ、愛情一陣風(歌:中国語と日本語)、
川の流れるように、塞馬変奏曲

③伴奏
手に手つないで



学友代表挨拶

財団設立当時の奨学生であり、台湾で「エビ養殖の父」として活躍される廖一久氏に、米山学友を代表してご挨拶をいただきました



中央研究院 院士
国立台湾海洋大学終身特聘教授
廖一久 I-Chiu Liao

公益財団法人ロータリー米山記念奨学会 小沢一彦理事長、財団設立50周年記念委員会 堀 東男委員長、および出席者の皆様、こんにちは：

私がロータリー米山記念奨学生に選ばれたのは、1965年3月から1968年3月の3カ年です。その時、まだ生まれていない方がおられると思いますが、私の推薦クラブは台湾の豊原ロータリークラブ(RC)、日本の愛知県の田原RCです。ここに田原RCの方いらっしゃいますか？

カウンセラーは渥美養魚株式会社の木村さんでした。非常にお世話になりました。どうもありがとうございます。私の修士および博士課程の指導教授は東京大学の大島泰雄先生です。先生は日本の水産増・養殖の先駆者で、東大農学部長を歴任し、著名な栽培漁業の大家でもあります。私が東大入学前には、韓国および台湾からそれぞれ一人の先輩留学生がおられました。韓国からの崔さんは立派なナマコの研究者になり、育ちましたが、台湾からの先輩は残念ながら生活に追われ、中途放棄せざるを得ず、中退いたしました。

私が入学した1965年頃は日本も戦後復興期で、奨学金は皆無に等しい時代でした。大島先生の理念としては、「留学する以上アルバイトはもつてのほか、研究に専念すべきである」という一言で、当時の在日台湾同郷会からの奨学金や、家庭教師、または塾での教鞭、および先輩の助けでの金額では生活するのがなかなか苦しい状態でありました。ロータリー米山記念奨学生に選ばれたことは、費用の心配がなく、全力全力研究に打ち込むことができ、おかげさまで1968年3月に博士課程を無事修了することができました。その当時、クルマエビの攝餌生態についての研究はまだあまりなかったのです。私の研究がエビ養殖の産業界に貢献することができたことは望外な収穫でした。

学位を得たことはその当時といたしましてはかなり特筆すべきことでした。誰もが安田講堂で卒業式を行われることを期待いたしておりました。私もそれを期待しておりましたが、大学紛争のために式は挙行されませんでした。しかし、世間のことは、なかなか意に反することが常事だと信じれば、それほど失意することはありません。その当時、安保に反対する学生運動は真っ最中で、安田講堂は学生諸君に占拠され、その後延々と2年ほど続き、その年の東大入試も取りやめになりました。その当時の学生諸君にすれば、私たち

の卒業式よりは、はるかに大事な国家の今後の行き先が問われていることだと信じ、安田講堂占拠に乗り出したことと思います。その当時は、そういう状況でした。そういうことになり、私たちの卒業式は先生方のご配慮によりそれぞれ学科の教室でしめやかに行われたことが記憶に残っております。



人生途上、大事な卒業式を迎えることができない以上、私としては先輩がアレンジしてくださった、かの有名な山口県にある「藤永クルマエビ研究所(当時)」で3ヵ月、博士後の研究に励みました。在学中には自分のテーマが最優先で、ほかのことは興味があってもなかなか余裕がありません。藤永研究所では、思う存分、自分がやりたいことができました。私が台湾に帰国後、非常にスムーズに研究を進めることができたのは、この博士後の研究のおかげです。今でも感謝しております。こういういきさつがありますので、私は後輩たちに常に、学位取得後、そう急いで帰国する必要はないことを、よく経験から説得するのですが、わかってくださればそれに越したことはありません。

1968年ある日、米山記念奨学会のご招待を受け、台湾に帰る前の集会でテーブルマナーを教えていただいたことは非常に印象に残っております。これは生活に必要なものですね。ですから私は非常に感謝しております。



1968年7月21日、台湾に帰る当日、羽田空港で20数名を超える友人たちが白衣に大きな字で「廖博士萬歳」と書いたスローガンに見送られました。当時、この「万歳」とはタブーでした。なかなか使えない言葉でした。約3時間後、台湾の松山に着きました。豊原の父親と兄弟、友人たちが、台北の松山空港で6年3ヵ月ぶりに台湾へ戻った私を迎えてくれました。その時の写真がここに出ています。



1968年7月より1987年10月まで計19年4ヵ月、無我夢中で屏東県に所在する台湾省水産試験所東港分所をゼロから建設し、世界でも著名な水産養殖センターに育て上げました。この間、ウシエビ、いわゆるブラックタイガーの人工繁殖を世界で初めて成功させ、その後、一時は台湾を世界最大のウシエビ出産地に育て上げました。その他は、からすみの原料のボラ、つまり、からすみボラおよびサバヒーの人工繁殖技術を、世界の他の国より率先・確立して今日に至っております。そのほかにも色々な養殖種の繁殖技術、栽培漁業等の研究に従事いたしました。

1987年10月には台湾省水産試験所の所長に任命され、それから2002年1月16日の定年退職まで、水産試験所の全責任者として、水産養殖はもとより、水産資源および水産加工等の研究指導に携わりました。また、基隆市の本所と8分所のハード・ソフト面の充実や、新しい台東分所と澎湖水族館等の設立、本所立て直しに尽力いたしました。

この間、ロータリーとの関係については、台湾各地のロータリークラブのスピーチを頼まれた場合は必ず引き受けること、各地のロータリークラブ来訪者が来られた場合は引率することなどで多忙な毎日を過ごして参りました。

その後1999年より2016年まで台湾米山会SY-A奨学生選考委員を担当し、2000年から2016年まで30名の優秀な、台湾ですでに学位を取って、しかし日本に来たことのない学生を選び、日本国へ送り出しました。台湾ですでに学位を取った優秀な学生諸君です。ですから、日本に来てからも非常にスムーズに日本の社会に溶け込めます。今まで日本へ行ったことのない青年を数ヶ月から1年間日本へ留学させ、各専門分野において日本の教授の指導を受けさせました。留学後台湾へ戻ってSY-A諸君と意見交流したときに出た結論は、とても有益であったとの答えでした。30人のSY-A諸君の大多数の者はその後も台湾

本部と連絡があり、日台間の交流に積極的に活発に動いております。

私事で恐縮ですが、私が数年前、台湾米山会に招かれスピーチを託された時に、「台湾の近代化における留学生の役割」という題で講演をした覚えがあります。その中で、台湾と日本の近代化を比較するうえで私が最も重視するのは、法律や政治の分野です。科学の分野ではなく、政治・法律、そういう分野です。日本の真の強さは、皆さん、確固たる司法の独立性にあり、これが国民の一人ひとりを保護し、真の日本の近代化を築いてきたものと考えます。これからの台湾の人材育成には最重要課題として、より多くの優秀な法律や政治分野の学者を育て、台湾を真の近代化国家に“脱皮”させてもらいたい、というようなことを述べました。

大変嬉しい事に、SY-A留学生諸君の30名のなか15名は法律や政経分野です。これは私たち9名の選考委員が事前に何ら縛りつけたことのない、自然発展の結果です。これは本当に嬉しい限りでございます。台湾も、一日も早く日本のように立派な司法が独立した国民の幸せを実現できる国になることを願っております。

最後になりますが皆様と一緒に米山梅吉先生の崇高な人格を讃え、その遺志に従い、献身、サービス、フィードバックの精神を充分発揮しようではありませんか。皆様、どうかよろしくお願いします。ご清聴ありがとうございました。

以上

(ご本人の原稿通りに掲載しています)





50周年記念委員会委員長
公益財団法人ロータリー米山記念奨学会副理事長

塙 東男 Haruo Hanawa

本日は、ロータリー米山記念奨学会の財団設立50周年に際しましてのフォーラム、祝宴、また、当財団が設立された当時のお話しや、米山梅吉さんの生前の姿、そして、今日すばらしい活動をしている米山学友会、その礎の一人でおられる廖一久先生をはじめ、多くの方々からすばらしいお話を伺いながら、楽しいひとときを過ごさせていただき

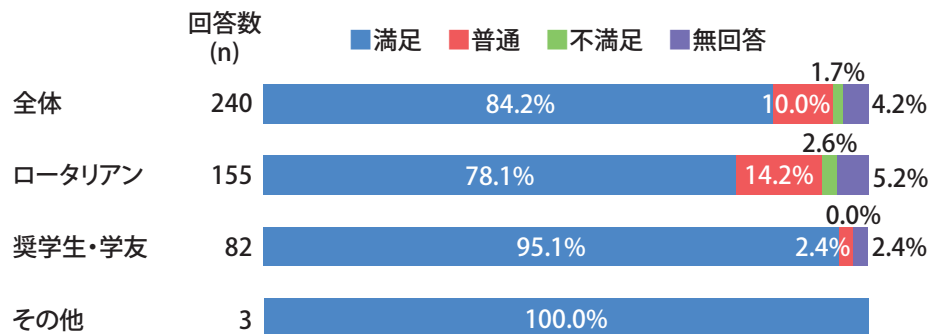
ました。

皆さま方とともに、このように会合ができましたことを感謝申し上げるとともに、財団創設50周年を機に、皆さま方からのますますのご支援、ご指導、ご鞭撻をお願い申し上げ、散会とさせていただきます。本日は皆さま、どうもありがとうございました。

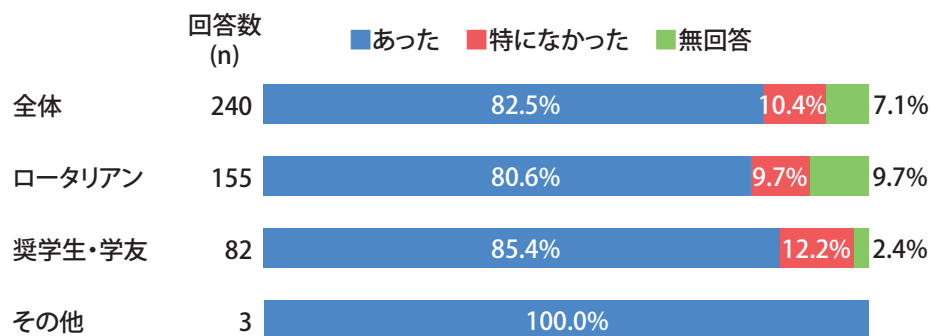


アンケート結果

Q1 フォーラム全体の満足度



Q2 心に残ったコメントおよびエピソードの有無



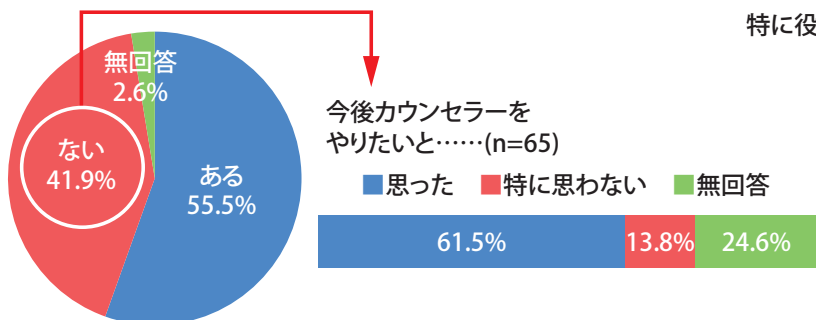
ロータリアンから

※順不同

- 米山梅吉翁ご本人と繋がっている方が未だお見えになり、ご来場されていた事に感銘を受けた。米山記念奨学事業は、本当に素晴らしい事業だと思います。(第2620地区)
- 奨学生に負けずにします。(第2840地区)
- 「夢」を強く持っている人は強いと思いました。(第2540地区)
- 全国のロータリアンにもっと米山奨学事業を理解・広報すべき!! (第2740地区)
- 元奨学生から生の声が聞けて良かった。特に姜さんの二胡が良かった。廖一久さんのスピーチからも分かった。(第2580地区)
- 改めて基本を確認できた。基本がなければ成長なし。(第2580地区)
- 一般のロータリアンにまだまだ米山の良さ、意義が伝わっていない。残念です。(第2570地区)
- 米山学友が職業奉仕に尽くされている事に感動した。(第2580地区)
- 巣立っていった元奨学生と出会えてよかった。同窓会みたいでよかったです。(第2660地区)

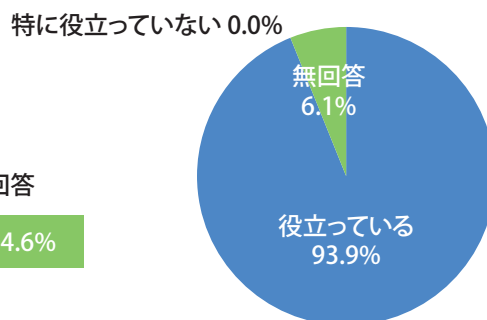
Q3 カウンセラー経験の有無 (ロータリアン)

回答数(n)=155

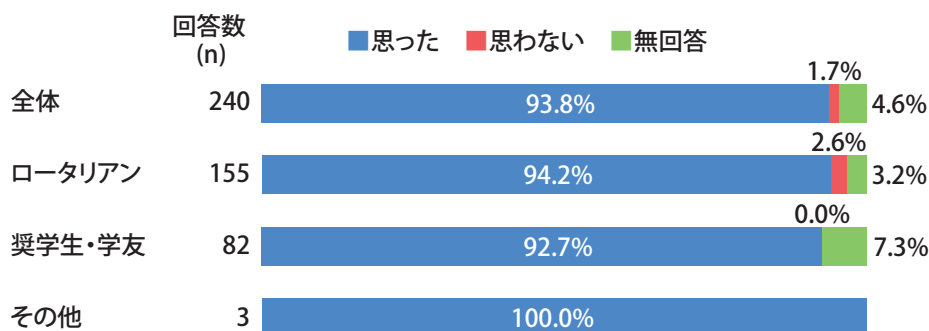


Q4 米山奨学金制度が目標や夢の実現に 役立っているか(奨学生・学友)

回答数(n)=82



Q5 フォーラムを機に、寄付意向が高まったか



学友・奨学生から

※順不同

- いい場所でいい経験をいただきました！
ハラル食事までいただき、ありがとうございました！（インドネシア 学友）
- いつも「世界の平和の種をまく」の言葉が心に残っていきまして、
今日またその字が見えました。（ベトナム 学友）
- 先輩たちの言葉をきかせてもらい、これからの自分の目標がどんどん明確になってきました。（中国 奨学生）
- 改めてロータリーファミリーの大きさに気づき、
たくさんの方々からの支援に感謝の気持ちをもう一度実感できました。（モンゴル 学友）
- 米山学友の方々のフォーラムや紹介で、彼らの実行力、恩返し的心、
意思からたくさんの感銘を受けました。（韓国 奨学生）
- 皆様のスピーチが素晴らしくて感動しました。
自分の奨学生としての生活を思い出して懐かしかったです。（中国 学友）
- 陳さんが、米山奨学会との出会いが私の素晴らしい人生をつくりました、と言われたのが心に残りました。
私も同感です。（中国 学友）

式典を支えてくれた方々

司会

<第1部 フォーラム>

カレン・ジュリア ウォーターズ
(オーストラリア/1992-94/京都南RC)

<第2部 祝賀会>

相澤 光春 (ふじさわ湘南RC)
米山記念奨学会 50周年記念委員会 委員

ジョルダヤコヴァ サウレ
(カザフスタン/2015-17/伊勢原RC)



来賓対応(各国大使館・地域代表機関)

山崎 淳一(五所川原RC)
米山記念奨学会 常務理事

武田 和夫(山形南RC)
米山記念奨学会 常務理事

宇佐見 透(千葉幕張RC)
米山記念奨学会 広報委員長

刀根 莊兵衛(敦賀RC)
米山記念奨学会 選考・学務委員

柳生 好春(野々市RC)
米山記念奨学会 選考・学務委員

タン シン ナイン(東京米山ロータリーEクラブ)
(ミャンマー/2003-05/東京調布RC)

スミャラ エー
(ミャンマー/2017-18/東京練馬西RC)

歐 元韻(台北南山RC)
(台湾/1988-89/広島中央RC)

エンフボルド, ボロルトヤ
(モンゴル/2010-12/米沢RC)

黄 麗容
(マレーシア/2001-04/横浜泉RC)

レ ティ フン ディエン
(ベトナム/2008-09/横浜戸塚東RC)

レ ホアレ

(ベトナム/2017-18/東京東久留米RC)

スチッタ・グナセカラ(2720 Japan O.K.ロータリーEクラブ)
第2代よねやま親善大使(スリランカ/2010-11/別府RC)



50周年記念誌・記念グッズ頒布協力

山本 和則(新潟南RC)

米山記念奨学会 広報委員

丸尾 研一(神戸西神RC)

米山記念奨学会 広報委員

写真撮影

佐藤 孝(東京山の手RC)

第2750地区米山記念奨学委員会 委員

鍾 允順

(台湾／2014-15／池田くれはRC)

受付・会場設営・来賓対応等

嶋村 文男(東京東江戸川RC)

第2580地区米山記念奨学委員会 元副委員長

李 麗俞

(台湾／1984-85／奈良RC)

篠原 曉恵[**林 筱蕙**]

(台湾／1985-87／船橋西RC)

北山 玉翠[**何 玉翠**]

(台湾／1987-89／奈良RC)

シュレスト, ディネス・プラサド

(ネパール／1991-92／宝塚武庫川RC)

馬橋 達成[**馬 達**]

(中国／1991-92／熊本西RC)

シュティカーン・テプサン

(タイ／1993-95／新大阪RC)

松田 振興[**潘 振興**](大阪城南RC)

(台湾／1996-98／奈良大宮RC)

東 林華[**林 玉花**]

(中国／1998-99／岡山東RC)

梁 一強

(中国／1999-2001／東京四谷RC)

上野 佳子[**馬 佳**]

(中国／2000-02／東京臨海東RC)

エリヤワ, ラシタ・アサンカ

(スリランカ／2006-07／甲府南RC)

龔 雷

(中国／2007-08／横浜鶴峰RC)

王 紅

(中国／2008-10／木更津東RC)

吳 伽科

(中国／2009-10／東大阪みどりRC)

耿 迪

(中国／2010-12／北見東RC)

イット, チャンソクピーア

(カンボジア／2010-11／東京田無RC)

周 大亮

(中国／2011-13／秩父RC)

徐 于懿

(台湾／2011-12／京都洛東RC)

馬 可

(中国／2012-14／鶴岡東RC)

式典を支えてくれた方々

徐 倩

(中国／2012-13／東京池袋西RC)

甘 耿

(中国／2012-14／大阪北RC)

李 政

(中国／2012-14／新大阪RC)

單 雅婷

(台湾／2012-13／四條畷RC)

アクデミル, ブラク

(トルコ／2013-15／東京城西RC)

アブデルアール, アハメド

(エジプト／2013-15／大東中央RC)

シュレスタ, リエ

(ネパール／2013-15／大東RC)

アリフ・ザイニ

(マレーシア／2013-15／大阪城東RC)

エンフボルド, ガンエルデネ

(モンゴル／2014-15／東京江東RC)

許 知蕙

(台湾／2014-16／東大阪みどりRC)

馬 惠英

(台湾／2014-15／大阪咲洲RC)

アリ, ムスタファ アボエルエライムバラク

(エジプト／2015-17／守口イブニングRC)

陳 佳怡

(中国／2015-16／大阪ユニバーサルシティRC)

ゾリゴト, スガル

(モンゴル／2016-17／新所沢RC)

安 憲永

(韓国／2016-18／東京江北RC)

林 士弘

(台湾／2016-17／大阪鶴見RC)

張 淵

(中国／2016-17／大阪城南RC)

バルダンニャム・ダリマー

(モンゴル／2016-17／交野RC)

李 昱昊

(中国／2016-17／東京銀座RC)

李 秀美

(中国／2017-19／入間RC)

ラズバンシ, アンジャナ

(ネパール／2017-19／越生毛呂RC)

伊克拉木 阿力甫

(中国／2017-18／東京RC)

カムピラー, アイラダー

(タイ／2017-18／東京本郷RC)

劉 鵬瑤

(中国／2017-19／東京荒川RC)

陳 家瑜

(台湾／2017／茨木東RC)

晁 崧徽

(台湾／2017-18／東京町田RC)

崔 佑赫

(韓国／2017-19／東京世田谷南RC)

グエン クイ ヴー

(ベトナム／2017-19／東京世田谷RC)



特別表彰対応

于 咏(愛知ロータリーEクラブ)
第2代よねやま親善大使(中国／2005-07／名古屋中RC)

スチッタ・グナセカラ(2720 Japan O.K.ロータリーEクラブ)
第2代よねやま親善大使(スリランカ／2010-11／別府RC)



アトラクション

姜 曉艷
(中国／2000-02／広島西南RC)

全体統括

埜 東男(笠間RC)
米山記念奨学会 副理事長／50周年記念委員会 委員長

松本 康子(青森中央RC)
米山記念奨学会 50周年記念委員会 委員

高野 孫左エ門(甲府RC)
米山記念奨学会 50周年記念委員会 委員

相澤 光春(ふじさわ湘南RC)
米山記念奨学会 50周年記念委員会 委員

滝澤 功治(神戸須磨RC)
米山記念奨学会 50周年記念委員会 委員

感謝の言葉

記念式典当日は、来賓対応・登録受付・会場誘導案内・アトラクション・記念グッズ頒布・写真撮影等々、100名にも上るロータリアン・米山奨学生・学友の皆様がボランティアとしてご奉仕してくださり、スムーズに式典運営がなされました。記念式典が成功裏に終わることができましたのもボランティアの皆様の御蔭です。此処に全員のお名前を掲載できませんでしたが、国内外からご参集いただいたボランティアの皆様に謹んで感謝申し上げます。

50周年記念委員会 委員
滝澤 功治

地区からのたより

横断幕を掲げて50周年を祝おう！

第2510地区(北海道)

地区大会にて米山奨学生によるドリンクサービス



第2560地区(新潟県)

米山奨学生研修旅行



第2770地区(埼玉県)

米山記念奨学部門セミナー



第2790地区(千葉県)

カウンセラー研修会



第2800地区(山形県)

米山記念奨学セミナー



第2580地区(東京都・沖縄県)

米山奨学生期間終了式

各ロータリー地区では、米山記念奨学委員会や米山学友会のさまざまな行事に、特製の「横断幕」を掲示して、財団設立50周年の祝意を表してくださいました。その一例をご紹介します。

第2620地区(山梨県・静岡県)
第2620地区米山学友会総会



第2760地区(愛知県)
米山梅吉記念館への研修旅行



第2780地区(神奈川県)
米山学友会主催 江ノ島海岸クリーンキャンペーン



第2680地区(兵庫県)
米山記念奨学セミナー

第2690地区(岡山県・島根県・鳥取県)
米山奨学生・米山学友親睦会



第2700地区(福岡県・佐賀県・長崎県)
米山奨学生のための卓話研修会

その他の50周年記念事業

財団設立50周年記念DVDの発行

50周年記念として事業紹介DVDを新たに制作し、ホームページで公開しました。

また、このDVD『世界へ届け 米山の懸け橋』を、10月の米山月間に合わせて、全ロータリークラブに送付しました。さらに、このDVDの英語版“Let the Bridge of Yoneyama Reach to the World”を制作し、ホームページで公開すると共に、50周年記念式典において各国大使館・地域代表機関からの来賓に配布しました。

タイトル：『世界へ届け 米山の懸け橋』

ロータリー米山記念奨学会 財団設立50周年記念』

日本のロータリーの礎を築いた米山梅吉翁の生い立ちや、当事業の特徴、学友の活躍などを紹介。

DVDではチャプター別の再生が可能。

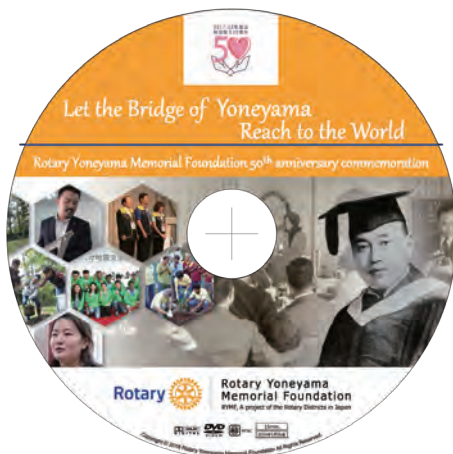


完 成： 2017年9月

所要時間： 15分(全編再生時)

媒 体： DVD

内 容： 1. プロローグ
2. 米山梅吉翁と米山記念奨学会の設立
3. 米山記念奨学事業の概要
4. 広がる学友との絆
5. 次世代を担う米山学友の活躍
6. エピローグ



制作部数： 4,000枚
(うち、約2,700枚は、米山月間資料として、全クラブに1枚配布済み)

そ の 他： 英語版あり
(タイトル: Let the Bridge of Yoneyama Reach to the World)
※翻訳・ナレーションは米山学友が協力

「世界米山学友による感謝 in 熊本」が盛大に開催されました

2017年8月26日、「世界米山学友による感謝 in 熊本」(主催:米山学友合同会実行委員会 後援:公益財団法人ロータリー米山記念奨学会)が熊本市内のホテルで開催され、世界18の国・地域からの米山奨学生・学友196人、ロータリアン204人、その他家族などを含め総勢444人が参加しました。

このイベントは、学友によるロータリー米山記念奨学会財団設立50周年への祝賀に加え、今後、国内外の学友・学友会が横のつながりを持つための基盤づくりを目的としたものです。熊本での開催は、2016年4月に大地震に見舞われた熊本の復興を応援し、元気づけたい、という学友たちの思いから。それを受け、現地の第2720地区米山記念奨学委員会と同地区米山学友会がホストとして全面的に協力してくれて実現しました。26日午前中には、「感謝 in 熊本」の参加者有志80人が益城町立飯野小学校を訪問。当時の被災状況についての校長先生の話に耳を

傾け、義援金40万円を贈呈する奉仕活動も行いました。また、「感謝 in 熊本」の第1部でも、米山学友合同会から第2720地区ガバナー永田壮一氏へ、熊本大地震の義援金100万円が贈呈されました。

そのほか、米山梅吉翁の生涯を描く朗読劇や、タイや韓国、また学友会・ロータリアンのコラボレーションによる民族舞踊と合唱などが次々と披露され、会場は大盛り上がりでした。サプライズでくまモンが登場すると熱気は最高潮に達し、子どもから大人まで一緒に“くまモン体操”を踊る場面も。最後の参加者全員での「手に手つないで」は、会場いっぱいに広がっても足りないほどで、幾重にも折り返ししながら、弾ける笑顔で手を握り、再会を誓い合って閉幕となりました。

今後、このような国内外の米山学友が一同に会する交流の機会を2年おきに持つ計画で、次回は2年後、モンゴルで開催される予定です。



その他の50周年記念事業

財団設立50周年記念誌の発行

財団設立50周年を記念して、奨学会史『ロータリー米山記念奨学会50年のあゆみ』を2017年6月末に刊行しました。

当事業の歴史を25年ぶりに編纂したもので、米山梅吉氏の生涯や東京ロータリークラブによる米山基金の設立、財団法人化とその後の組織拡大、奨学事業のさまざまな試行錯誤と変遷、巣立った学友の活躍など、現在に至るまでに当会が歩んだ歴史を余すところなく記録したものです。このほか、国内外の全学友会の紹介、50周年記念特別座談会、年表などを収録。限定3,500部発行、1冊1,800円(送料込)で頒布しています。



記念グッズ(ネクタイ・スカーフ)の制作

財団設立50周年記念グッズとして、米山記念奨学事業のシンボルマークをあしらったオリジナルネクタイ(全3種、各種同布のポケットチーフ付)、およびスカーフを制作し、2017年9月から頒布を開始しました。ネクタイは各種500本、スカーフは当初100枚を制作したところ好評につき、さらに100枚を追加制作。いずれも2,500円(送料込)で頒布しています。



公益財団法人ロータリー米山記念奨学会
財団設立50周年

記念グッズ

ネクタイ(カード式チーフ付) 限定各500本×3種

日常使いに

ロータリー関係の会合はもちろん、日常でもお使いいただけるよう、ベーシックなエンジン・紐・グレーを基調にご用意。デザインが少しずつ異なります。同生地ポケットチーフはカードタイプなので、ポケットに差すだけで形が決まります。

各2,500円

スカーフ(ロングタイプ) 限定100枚
35cm×160cm 絹100%

ロングタイプなので、ひた巻くだけで落ち着いた華やかさが加わります。白いドットにちりばめられたハートのシンボルマークが女性らしさを醸しだし、水色のラインが上品な差し色となっています。

2,500円

ネクタイ・スカーフともに、50周年記念のタグ付

2017-18年度は
財団設立50周年

